長	野工業高等	导出子仪	開講年度 令和03年度 (2	2021年1号)	授業	科目	電気回路 I		
 科目基		3 131 33 121	100010 100 100 100 100 100 100 100 100	/	324214		57.17.27		
<u>17口坐</u> 科目番号		0012		科目区分	市	門 / 必	修		
74日留5 授業形態		授業		単位の種別と単		*i 」/ 必 修単位			
開設学科		電気電子	工学到	対象学年		沙羊瓜	. 2		
開設期	<u> </u>	通年	工于行	週時間数	2 2				
用政规			日川美味 他「命与回覧(1)」コロナ						
教科書/勃	数材		羊川義哨 他「竜丸回路(エ)」コロ) 気回路ノートI」電気書院, 高橋 寛 他	(1) がりですい電	,「基礎電気回路ノートⅡ」電気書院,参考書:小関修 他 \電気基礎」コロナ社				
担当教員	<u>į</u>	秋山 正弘	Ь						
到達目	標								
量の止弦 きること	波交流回路	における性質	いが説明でき,交流では瞬時値,実効 が説明でき,その簡単な組み合わせ回 で学習・教育目標の(D-1)の達成とする.	路についても説明	法が説明できること	できるこ と、キル	と. 抵抗, インダクタンス, 静電容 ヒホッフの法則等各種法則を説明で		
ルーブ	リック						1		
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安			未到達レベルの目安		
		ンス・アドミ く事ができる		各素子のインピッタンスを説明	ーダンス・ できる.	アドミ	各素子のインピーダンス・アドミッタンスを説明できない.		
。 瞬時値およびフェーザ表示を用い て、交流回路の問題を解く事がで きる。			ト 瞬時値およびフェーザ表示を用いた交流回路の複合問題のほとんどを解く事ができる。	瞬時値およびフ て、交流回路の			瞬時値およびフェーザ表示を用い て、交流回路の説明ができない。		
交流電力 できる。	を求める問	題を解く事力	複雑な交流回路で発生する交流電力を求める問題をほとんど解く事ができる。	交流電力について説明でき、その 基本的な問題を解く事ができる。			基本的な交流電力について、その 解き方を説明できない。		
 学科の	到達目標	項目との関	-				•		
(D-1)									
教育方	 法等								
<u>-// -// -/</u> 概要		正弦波雷	原圧・電流の瞬時値の取り扱いから入り	 , 続いてベクトル	記号,R-L	-C回路			
	· 	・授業方	法は講義を中心とし、演習問題や課題	, をだす.	10 5/ 11 =	- 0,,,,,,	(3 - 2) (3 - 2)		
授業の進	め方・方法	・適宜,	レポート課題を課すので、期限に遅れ	ず提出すること.					
		<成績評	『価>試験(60%)およびレポート課題(4	10%)の合計100点	i満点で(D-	-1)を評	価し,合計の6割以上を獲得した者を		
		一合格とす	·る. ` ´ ´	,	•	•			
注意点		合格とす	4価>試験(60%)およびレボート課題(4 る. スアワー>放課後 16:00 ~ 17:00, 「	,	•	•			
注意点		合格とす <オフィ 室可. <先修科	る. スアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 『 目・後修科目> 先修科目は雷気基礎.	電気電子工学科棟	1F 第1教員	· 真室. こ	の時間にとらわれず必要に応じて来		
		合格とす <オフィ 室可. <先修科 <備考>	る. スアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 「 目・後修科目> 先修科目は電気基礎, 微積分, 行列式の計算が行えること.	電気電子工学科棟	1F 第1教員	· 真室. こ	の時間にとらわれず必要に応じて来		
	属性・履	合格とす <オフィ 室可. <先修科	る. スアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 「 目・後修科目> 先修科目は電気基礎, 微積分, 行列式の計算が行えること.	電気電子工学科棟	1F 第1教員	· 真室. こ	の時間にとらわれず必要に応じて来		
授業の	属性・履f ティブラー:	合格とす <オフィ 室可. <先修科 <備考> 修上の区分	る. スアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 「 目・後修科目> 先修科目は電気基礎, 微積分, 行列式の計算が行えること.	電気電子工学科棟	1F 第1教員 路Ⅱ,電子	· 真室. こ	の時間にとらわれず必要に応じて来		
授業の		合格とす <オフィ 室可. <先修科 <備考> 修上の区分	る. スアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 「 目・後修科目> 先修科目は電気基礎, 微積分, 行列式の計算が行えること.	電気電子工学科棟 後修科目は電気回	1F 第1教員 路Ⅱ,電子	· 真室. こ	の時間にとらわれず必要に応じて来 , 電気機器となる.		
授業の □ アク	ティブラー	合格とす <オフィ 室可. <先修科 <備考> 修上の区分	る. スアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 「 目・後修科目> 先修科目は電気基礎, 微積分, 行列式の計算が行えること.	電気電子工学科棟 後修科目は電気回	1F 第1教員 路Ⅱ,電子	· 真室. こ	の時間にとらわれず必要に応じて来 , 電気機器となる.		
授業の □ アク	ティブラー	合格とす <オフィ 室可. <先修科 <備考> 修上の区分	る. スアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 「 目・後修科目> 先修科目は電気基礎, 微積分, 行列式の計算が行えること.	電気電子工学科棟 後修科目は電気回	1F 第1教員 路Ⅱ,電子	を 全 子回路 I	の時間にとらわれず必要に応じて来 ,電気機器となる. □ 実務経験のある教員による授業		
授業の □ アク	ティブラー	合格とすイ 室子 会様オフ、修 を 会備考> 修上の区分 ニング	る. スアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 1 目・後修科目> 先修科目は電気基礎, 微積分, 行列式の計算が行えること.	電気電子工学科棟 後修科目は電気回 図 遠隔授業対応	1F 第1教員 路Ⅱ,電子	全 学。こ 子回路 I	の時間にとらわれず必要に応じて来 ,電気機器となる. □ 実務経験のある教員による授業		
授業の □ アク	ティブラー	合くとすイ 合く写 / 名 名 子 子 作 作 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子	る. スアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 1 目・後修科目> 先修科目は電気基礎, 微積分, 行列式の計算が行えること. ICT 利用 授業内容 正弦波交流の性質(周期、周波数、位	電気電子工学科棟 後修科目は電気回 図 遠隔授業対応	1F 第1教員 路 II , 電子 週ごとの 瞬時値の	空。ご 子回路 I 到達目標 最大値,	の時間にとらわれず必要に応じて来 , 電気機器となる. □ 実務経験のある教員による授業 ■ 大田 ・		
授業の	ティブラー	合くされ 空	る. スアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 1 目・後修科目> 先修科目は電気基礎, 微積分, 行列式の計算が行えること.	電気電子工学科棟 後修科目は電気回 図 遠隔授業対応 は相差、位相)	1F 第1教員 路 II , 電子 週ごとの! 瞬時値の! ・ 抵抗による	京 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三	の時間にとらわれず必要に応じて来 ,電気機器となる. □ 実務経験のある教員による授業		
授業の □ アク	ティブラー:	合くマイ 会くマー 会とマイ ター ター ター ター ター ター ター ター	る. スアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 19	電気電子工学科棟後修科目は電気回 遠隔授業対応 は相差、位相)	1F 第1教員 路 II , 電子 過ごとの 瞬時値の ・ 抵抗によってきる・	学 . ご 子回路 I 野達目標 最大値 , る交流 タンスに	の時間にとらわれず必要に応じて来 ,電気機器となる. □ 実務経験のある教員による授業 歴 角速度,位相差,位相を理解できる.		
授業の □ アク	ティブラー	Second Price of Application	る. スアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 1 目・後修科目> 先修科目は電気基礎, 微積分, 行列式の計算が行えること. □ ICT 利用 授業内容 正弦波交流の性質(周期、周波数、位 回路要素の電圧ー電流特性(抵抗) 回路要素の電圧ー電流特性(インダク 回路要素の電圧ー電流特性(静電容量	電気電子工学科棟後修科目は電気回 遠隔授業対応 は相差、位相)	1F 第1教員 路II, 電子 過ごをのう 瞬時によってき電容量 ・	至. ご子回路 I 到達目様。 る交流間 タンスに による 3	の時間にとらわれず必要に応じて来 , 電気機器となる. □ 実務経験のある教員による授業 歴 角速度, 位相差, 位相を理解できる。 正よる交流電圧・電流への作用を理解できる。 正よる交流電圧・電流への作用を理解できる。		
授業の □ アク	ティブラー:	Second Price of Application	る. スアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 1 目・後修科目> 先修科目は電気基礎, 微積分, 行列式の計算が行えること. □ ICT 利用 授業内容 正弦波交流の性質(周期、周波数、位 回路要素の電圧ー電流特性(抵抗) 回路要素の電圧ー電流特性(インダク 回路要素の電圧ー電流特性(静電容量 瞬時値を用いて交流回路計算	電気電子工学科棟後修科目は電気回 遠隔授業対応 は相差、位相)	1F 第1教員 路II, 電子 過ご値 瞬時値よ イできる容 ・ 瞬時値を り ・ 瞬時値を り	データンス による 3 用いて,	の時間にとらわれず必要に応じて来 , 電気機器となる. □ 実務経験のある教員による授業 無 角速度, 位相差, 位相を理解できる。 弘正・電流への作用を理解できる. こよる交流電圧・電流への作用を理解 変流電圧・電流への作用を理解できる。 交流回路の計算ができる.		
授業の □ アク	ティブラー:	Second Process	る. スアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 19:00 ~ 17:00, 19:00 ~ 17:00, 19:00 ~ 17:00, 19:00 ~ 17:00, 19:00 ~ 17:00, 19:00 ~ 17:00, 19:00 ~ 17:00, 19:00 ~ 17:00, 19:00 ~ 17:00, 19:00 ~ 17:00, 19:00 ~ 17:00, 19:00 ~ 17:00, 19:00 ~ 17:00, 19:00 ~ 17:00, 19:00 ~ 17:00 ~ 17:00, 19:00 ~ 17:	電気電子工学科棟後修科目は電気回 遠隔授業対応 は相差、位相)	IF 第1教員 路II, 電子 過ごとの 瞬時値の ・ 抵抗にダク。 静電容量 ・ 瞬時値を R,L,Cの値	至. こ 子回路 I 到達目様, る交流に タンスに によるが によるが によるが によるが によるが によるが によるが によるが によるが によるが によるが によるが によるが にもいて, にもの にもいて, にもの にもいて, にもの にもいて, に	の時間にとらわれず必要に応じて来 , 電気機器となる. □ 実務経験のある教員による授業 「		
授業の □ アク	ティブラー:	Second Price of Application	る. スアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 1 目・後修科目> 先修科目は電気基礎, 微積分, 行列式の計算が行えること. □ ICT 利用 授業内容 正弦波交流の性質(周期、周波数、位 回路要素の電圧ー電流特性(抵抗) 回路要素の電圧ー電流特性(インダク 回路要素の電圧ー電流特性(静電容量 瞬時値を用いて交流回路計算	電気電子工学科棟後修科目は電気回 遠隔授業対応 は相差、位相)	1F 第1教員 路II, 電子 過ごとのの ・ 抵抗によってき電で 静・ 瞬時値をが R,L,Cの値 R,L,Cの値	至. こ 子回路 I 到達目標 最大値, る交流に タンスに によるず によるず 用い回路 位列回路	の時間にとらわれず必要に応じて来 ,電気機器となる. □ 実務経験のある教員による授業 角速度,位相差,位相を理解できる。 ③圧・電流への作用を理解できる。 こよる交流電圧・電流への作用を理解 ※流電圧・電流への作用を理解できる。 交流回路の計算ができる。 の計算ができる。 の計算ができる。		
授業の アクラス	ティブラー:	Second Process	る. スアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 19:00 ~ 17:00, 19:00 ~ 17:00, 19:00 ~ 17:00, 19:00 ~ 17:00, 19:00 ~ 17:00, 19:00 ~ 17:00, 19:00 ~ 17:00, 19:00 ~ 17:00, 19:00 ~ 17:00, 19:00 ~ 17:00, 19:00 ~ 17:00, 19:00 ~ 17:00, 19:00 ~ 17:00, 19:00 ~ 17:00, 19:00 ~ 17:00 ~ 17:00, 19:00 ~ 17:	電気電子工学科棟後修科目は電気回 遠隔授業対応 は相差、位相)	1F 第1教員 路II, 電子 過ご時にいる。 近にいる。 がある。 でき電では、 でき電では、 できる。 では、 ででする。 では、 ででする。 では、 ででする。 ででは、 ででする。 ででは、 ででする。 ででは、 ででは、 ででは、 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。	・ 空 . こ ご 子 回路 I 到達 目標	の時間にとらわれず必要に応じて来 , 電気機器となる. □ 実務経験のある教員による授業 「		
受業の アクラス	ティブラー:	Second Process	る. スアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 信日・後修科目> 先修科目は電気基礎, 微積分, 行列式の計算が行えること. □ ICT 利用 授業内容 正弦波交流の性質(周期、周波数、位回路要素の電圧ー電流特性(抵抗) 回路要素の電圧ー電流特性(インダク回路要素の電圧ー電流特性(静電容量瞬時値を用いて交流回路計算 R,L,Cの直列回路 R,L,Cの並列回路 理解度の確認	電気電子工学科棟後修科目は電気回 遠隔授業対応 は相差、位相)	1F 第1教員 路II, 電子 ごと値のが ・抵抗にダる。容値によってき電値によっている。 R,L,Cのでまく で表し、ことのである。 R,L,Cのである。 R,L,Cのである。 とのである。 R,L,Cのである。 R,L,Cのである。 E,L,Cooper を E,L,Cooper を E,	全 ここ ここ	の時間にとらわれず必要に応じて来 ,電気機器となる. □ 実務経験のある教員による授業 角速度,位相差,位相を理解できる。 ⑤圧・電流への作用を理解できる。 こよる交流電圧・電流への作用を理解できる。 で流電圧・電流への作用を理解できる。 交流回路の計算ができる。 の計算ができる。 の計算ができる。 の計算ができる。 の計算ができる。 できる。		
授業の アクラス	ティブラー:	Second Process	る. スアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 信日・後修科目> 先修科目は電気基礎, 微積分, 行列式の計算が行えること. ICT 利用	電気電子工学科棟後修科目は電気回 遠隔授業対応 は相差、位相)	1F 第1教員 路 II , 電子	全 ここ	の時間にとらわれず必要に応じて来 , 電気機器となる. □ 実務経験のある教員による授業 「 実務経験のある教員による授業 「 実務経験のある教員による授業 「		
授業の アクラス	ティブラー:	修二 修二 修二 修二 修二 修二 り り り り り り り り り り り り り	る. スアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 信日・後修科目> 先修科目は電気基礎, 微積分, 行列式の計算が行えること. □ ICT 利用 授業内容 正弦波交流の性質(周期、周波数、位回路要素の電圧ー電流特性(抵抗) 回路要素の電圧ー電流特性(インダク回路要素の電圧ー電流特性(静電容量瞬時値を用いて交流回路計算 R,L,Cの直列回路 R,L,Cの並列回路 理解度の確認 ベクトルと複素数(1) ベクトルと複素数(2)	電気電子工学科棟後修科目は電気回 遠隔授業対応 は相差、位相)	1F 第1教員 路 II , 電子 ご 週 瞬時 . 近 は に ダる 容 値 の は . 大 で ま で 値 に だ ダる 容 値 の で ま く 値 の 値 で ま く 値 関 数 で ま に る ま で ま に る ま で ま に る ま で ま に る ま で ま に る ま で ま に る ま で ま に る ま で ま に る ま で ま に る ま で ま に る ま で ま に る ま で ま に る ま で ま に る ま で ま に る ま で ま に る ま で ま に る ま で ま に る ま で ま に る ま で ま に る ま で ま で ま に る ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま	全 こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ	の時間にとらわれず必要に応じて来 ,電気機器となる. □ 実務経験のある教員による授業 「関連では、位相差、位相を理解できる。」 こよる交流電圧・電流への作用を理解できる。 こよる交流電圧・電流への作用を理解できる。 で流電圧・電流への作用を理解できる。 の計算ができる。 の計算ができる。 にた交流回路を理解し、関係する問題。 をに交流回路を理解し、関係する問題。 を記述のできる。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
授業の アクラス	ティブラー:	修二 6 5 6 7 8 8 9 1 1 1 1 1 1 1 1	る. スアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 19:00	電気電子工学科棟後修科目は電気回 遠隔授業対応 は相差、位相)	1F 第1教 第1 第 1 第 1 第 1 第 1 第 1 第 1 第 1 第 1 第 1	全 ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア	の時間にとらわれず必要に応じて来 ,電気機器となる. □ 実務経験のある教員による授養 ■ 実務経験のある教員による授養 ■ 角速度,位相差,位相を理解できる。 こよる交流電圧・電流への作用を理解できる。 こよる交流電圧・電流への作用を理解できる。 交流回路の計算ができる。 の計算ができる。		
授業の アクラス	声ィブラー: 画 1stQ	修二 修二 上 上 上 上 上 上 上 上	る. スアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 19	電気電子工学科棟後修科目は電気回 遠隔授業対応 は相差、位相)	1F 第1教員 3 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	・ 全 ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア	の時間にとらわれず必要に応じて来 ,電気機器となる. □ 実務経験のある教員による授業		
授業の アクラス	ティブラー:	修工 1 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週	る. スアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 信日・後修科目> 先修科目は電気基礎, 微積分, 行列式の計算が行えること. □ ICT 利用 授業内容 正弦波交流の性質(周期、周波数、位回路要素の電圧ー電流特性(抵抗) 回路要素の電圧ー電流特性(インダク回路要素の電圧ー電流特性(静電容量瞬時値を用いて交流回路計算 R,L,Cの直列回路 R,L,Cの並列回路 理解度の確認 ベクトルと複素数(1) ベクトルと複素数(2) 複素数 複素数による交流回路の解法 平均値と実効値(1)	電気電子工学科棟後修科目は電気回 遠隔授業対応 は相差、位相)	1F 第1 教	・ 全 ア	の時間にとらわれず必要に応じて来 , 電気機器となる. □ 実務経験のある教員による授業		
授業の アクラス	声ィブラー: 画 1stQ	修二 6 2 2 3 3 3 3 3 3 3 3	る. スアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 信日・後修科目> 先修科目は電気基礎, 微積分, 行列式の計算が行えること. □ ICT 利用 授業内容 正弦波交流の性質(周期、周波数、位回路要素の電圧ー電流特性(抵抗) 回路要素の電圧ー電流特性(インダク回路要素の電圧ー電流特性(静電容量瞬時値を用いて交流回路計算 R,L,Cの直列回路 R,L,Cの並列回路 理解度の確認 ベクトルと複素数(1) ベクトルと複素数(2) 複素数 複素数による交流回路の解法 平均値と実効値(1) 平均値と実効値(2)	電気電子工学科棟後修科目は電気回 遠隔授業対応 は相差、位相)	1F路 『 週瞬・抵イで静・瞬・尺、C まく 値関数 波値値に ダる容値のです。 では関数 波値値を でいまく 値関数 波値値を できます しょう できまる かっこう かっこう かっこう かっこう かっこう かっこう かっこう かっこう	全 ア	の時間にとらわれず必要に応じて来 ,電気機器となる. 実務経験のある教員による授養 大変流し、位相を理解できる。 こよる交流電圧・電流への作用を理解できる。 こよる交流電圧・電流への作用を理解できる。 で表流し路の計算ができる。 の計算ができる。 の計算ができる。 の計算ができる。 できる。		
授業の アクラス	声ィブラー: 画 1stQ	修工 1 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週	る. スアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 信日・後修科目> 先修科目は電気基礎, 微積分, 行列式の計算が行えること. □ ICT 利用 授業内容 正弦波交流の性質(周期、周波数、位回路要素の電圧ー電流特性(抵抗) 回路要素の電圧ー電流特性(インダク回路要素の電圧ー電流特性(静電容量瞬時値を用いて交流回路計算 R,L,Cの直列回路 R,L,Cの並列回路 理解度の確認 ベクトルと複素数(1) ベクトルと複素数(2) 複素数 複素数による交流回路の解法 平均値と実効値(1)	電気電子工学科棟後修科目は電気回 遠隔授業対応 は相差、位相)	1F路 『 週瞬・抵イで静・瞬・尺、C まく 値関数 波値値に ダる容値のです。 では関数 波値値を でいまく 値関数 波値値を できます しょう できまる かっこう かっこう かっこう かっこう かっこう かっこう かっこう かっこう	・ 三 ・ 三 ・ 三 ・ 三 ・ 三 ・ 三 ・ 三 ・ 三 ・ 三 ・ 三	の時間にとらわれず必要に応じて来 , 電気機器となる. 実務経験のある教員による授養 角速度, 位相差, 位相を理解できる。 正・電流への作用を理解できる。 こよる交流電圧・電流への作用を理解できる。 こよる交流電圧・電流への作用を理解できる。 交流回路の計算ができる。 の計算ができる。 の計算ができる。 の計算ができる。 をた交流回路を理解し、関係する問題。 を表数の対応付けを説明できる。 を計算できる。 を表数の対応付けを説明できる。 を計算できる。 をまるには、関係する問題を関係できる。 をまるには、関係する問題を関係できる。 をまるには、関係する問題を関係できる。 をまるには、関係する問題を関係できる。 をまるには、関係する問題を対応回路を理解し、関係する問題を対応回路を理解し、関係する問題を対応回路を理解し、関係する問題		
授業の アクラス	声ィブラー: 画 1stQ	修二 6 2 2 3 3 3 3 3 3 3 3	る. スアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 信日・後修科目> 先修科目は電気基礎, 微積分, 行列式の計算が行えること. □ ICT 利用 授業内容 正弦波交流の性質(周期、周波数、位回路要素の電圧ー電流特性(抵抗) 回路要素の電圧ー電流特性(インダク回路要素の電圧ー電流特性(静電容量瞬時値を用いて交流回路計算 R,L,Cの直列回路 R,L,Cの並列回路 理解度の確認 ベクトルと複素数(1) ベクトルと複素数(2) 複素数 複素数による交流回路の解法 平均値と実効値(1) 平均値と実効値(2)	電気電子工学科棟後修科目は電気回 遠隔授業対応 は相差、位相)	1F路 『 週瞬 . 抵イで静 . 瞬 . 展, L, L, n解時角素弦均均れるでより。 と値 に ダる容 値 C C まく 値 関数 波値値 までり、 R, L, Cを瞬 三複変 変 値 を で で 事に 数の で 変 と と で で 事に 数の で き に 数 の で き に な の で き に る の で き に 数 の で き に 数 の で き に 数 の で き に 数 の で き に 数 の で き に 数 の で き に 数 の で き に 数 の で き に 数 の で き に 数 の で き に 数 の で き に 数 の で き に 数 の で き に 数 の で き に 数 の で き に 数 の で き に 数 の で き に 数 の で き に 数 の で き に か の で と に か の で と に か の で と に か の で と に か の で と に か の で と に か の で	・ 三 ・ 三 ・ 三 ・ 三 ・ 三 ・ 三 ・ 三 ・ 三 ・ 三 ・ 三	の時間にとらわれず必要に応じて来 , 電気機器となる. 実務経験のある教員による授養 角速度, 位相差, 位相を理解できる。 正・電流への作用を理解できる。 こよる交流電圧・電流への作用を理解できる。 こよる交流電圧・電流への作用を理解できる。 交流回路の計算ができる。 の計算ができる。 の計算ができる。 の計算ができる。 をた交流回路を理解し、関係する問題。 を表数の対応付けを説明できる。 を計算できる。 を表数の対応付けを説明できる。 を計算できる。 をまるには、関係する問題を関係できる。 をまるには、関係する問題を関係できる。 をまるには、関係する問題を関係できる。 をまるには、関係する問題を関係できる。 をまるには、関係する問題を対応回路を理解し、関係する問題を対応回路を理解し、関係する問題を対応回路を理解し、関係する問題		
授業の アクラス	声ィブラー: 画 1stQ	修二 6 5 6 7 8 8 8 8 8 8 8 8	る. スアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 信日・後修科目> 先修科目は電気基礎, 微積分, 行列式の計算が行えること. 日・後修科目> 先修科目は電気基礎, 微積分, 行列式の計算が行えること. 口 ICT 利用	電気電子工学科棟後修科目は電気回 遠隔授業対応 は相差、位相)	1F路 週 瞬・抵イで静・瞬・見を向いている。 と値に グる容値 Cのでまく 値関数波値値まく をでいる。 といるである。 これのです。 これのできる。 これ	章 ア	の時間にとらわれず必要に応じて来 , 電気機器となる. 実務経験のある教員による授養 角速度, 位相差, 位相を理解できる。 正・電流への作用を理解できる。 こよる交流電圧・電流への作用を理解できる。 こよる交流電圧・電流への作用を理解できる。 交流回路の計算ができる。 の計算ができる。 の計算ができる。 の計算ができる。 をた交流回路を理解し、関係する問題。 を表数の対応付けを説明できる。 を計算できる。 を表数の対応付けを説明できる。 を計算できる。 をまるには、関係する問題を関係できる。 をまるには、関係する問題を関係できる。 をまるには、関係する問題を関係できる。 をまるには、関係する問題を関係できる。 をまるには、関係する問題を対応回路を理解し、関係する問題を対応回路を理解し、関係する問題を対応回路を理解し、関係する問題		
授業の アクラス	声ィブラー: 画 1stQ	修二 6 5 7 7 8 7 8 8 9 1 1 1 1 1 1 1 1	る. スアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 信日・後修科目> 先修科目は電気基礎, 微積分, 行列式の計算が行えること. 日・後修科目> 先修科目は電気基礎, 微積分, 行列式の計算が行えること. 口 ICT 利用	電気電子工学科棟後修科目は電気回 遠隔授業対応 は相差、位相)	1F 路 II ,	章 子	の時間にとらわれず必要に応じて来 , 電気機器となる. □ 実務経験のある教員による授業		
授業の アクラス	声ィブラー: 画 1stQ	修二 修二 修二 修二 上 が	る. スアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 信日・後修科目> 先修科目は電気基礎, 微積分, 行列式の計算が行えること. 日・後修科目> 先修科目は電気基礎, 微積分, 行列式の計算が行えること. 口 ICT 利用	電気電子工学科棟後修科目は電気回 遠隔授業対応 は相差、位相)	1F 路 I ,	・ 全 回	の時間にとらわれず必要に応じて来 , 電気機器となる. □ 実務経験のある教員による授業 角速度, 位相差, 位相を理解できる。 正・電流への作用を理解できる。 正よる交流電圧・電流への作用を理解できる。 交流回路の計算ができる。 の計算ができる。 の計算ができる。 の計算ができる。 できる。		
授業のフク	声ィブラー: 画 1stQ	修二 修二 修二 上	る. スアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 信日・後修科目> 先修科目は電気基礎, 微積分, 行列式の計算が行えること. □ ICT 利用 □ ICT N用 □ ICT NH □ ICT	電気電子工学科棟後修科目は電気回 遠隔授業対応 は相差、位相)	1F 路 II ,	・ 全 ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア	の時間にとらわれず必要に応じて来 , 電気機器となる. □ 実務経験のある教員による授業		
授業の アク 授業計 前期	画 1stQ 2ndQ	修二 修二 トン 週 1 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 1 1 1 1 1 1 1	る. スアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 常日・後修科目> 先修科目は電気基礎,微積分,行列式の計算が行えること. □ ICT 利用 □ ICT N用 □ ICT Nー □ ICT N	電気電子工学科棟後修科目は電気回 遠隔授業対応 は相差、位相)	1F 路 II ,	・室 回 到最 る夕 に 用望がよの意流実実学が ダダのの 室 回 達大 交ン よ い列列んでる加味と効効んで ンン加回 回ってき 回滅が複値値でき スス減を できる 医質 関係 できる スス減を	の時間にとらわれず必要に応じて来 ,電気機器となる. □ 実務経験のある教員による授業 角速度,位相差,位相を理解できる。 正・電流への作用を理解できる。 こよる交流電圧・電流への作用を理解できる。 交流回路の計算ができる。 の計算ができる。 の計算ができる。 の計算ができる。 をた交流回路を理解し、関係する問題。 おりができる。 表記算に用いられる数式処理 であるのがに付け できる。 表記明できる。 表記明できる。 また交流回路を理解し、関係する問題。 表記明できる。 また交流回路を理解し、関係する問題。 また交流回路を理解し、関係する問題。 また交流回路を理解し、関係する問題。 また交流回路を理解し、関係する問題。 また交流回路を理解し、関係する問題。 またを理解できる。 またを理解できる。 またを理解できる。 またを理解できる。 またを理解できる。 またを理解できる。 またを理解できままますできる。 またを理解できまますできる。 またを理解できますできますできますできる。 またを理解できますできますできる。 またを理解できますできる。 またを理解できますできる。 またを理解できますできる。 またを理解できますできる。 またを理解できますできる。 またを理解できますできる。 またを理解できますできる。 またを理解できますできる。 またを理解できますできる。 またを理解できる。 またをを解すななないさんないをなる。 またをなる。 またをなるをな		
授業の □ アク	画 1stQ 2ndQ	修二 修二 上 上 上 上 上 上 上 上	る. スアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 信日・後修科目> 先修科目は電気基礎, 微積分, 行列式の計算が行えること. □ ICT 利用 □ ICT N用 □ ICT Nー □ ICT	電気電子工学科棟後修科目は電気回 遠隔授業対応 は相差、位相)	1F 路 週 瞬 . 抵イで静 . 瞬 R, L, L, 和解時角素弦均均和解 こを 値 に ダる 容 値 C C まく 値 関数 波 値 値 まく ピピトトの RLC の で 事 に 数 の 交 とと で 事	章 ア 一 到最 るタ に 用更を学がよの意流実実学が ダダのの路室 四 達大 交ン よ い列列んでる加味と効効んで ンン加回のの 日 情 、 電 は る て 、路路 で 3 0 1 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2	の時間にとらわれず必要に応じて来 、電気機器となる。 □ 実務経験のある教員による授養 勇速度,位相差,位相を理解できる。 弘圧・電流への作用を理解できる。 こよる交流電圧・電流への作用を理解できる。 の計算ができる。 の計算ができる。 の計算ができる。 の計算ができる。 の計算ができる。 の計算ができる。 の計算ができる。 をた交流回路を理解し、関係する問題 は、 のがクトル合成への置き換え 理解できる。 を対象の対応付け 説明できる。 を対象の対応付け 説明できる。 を対象の対応付け 説明できる。 を対象の対応付け に対明できる。 を対象の対応付け に対明できる。 を対象の対応付け に対明できる。 を対象の対応付け に対明できる。 を対象の対応付け に対明できる。 に対象を理解できまりできる。 は、		

		8週	理解度の	理解度の確認				これまで学んできた交流回路を理解し,関係する問題 を解く事ができる.			
	4thQ	9週	インピーダンスを用いる回路計算(1)				キルヒホッフの法則を用いて交流回路を計算できる.				
		10週	インピ-	インピーダンスを用いる回路計算(2)				重ねの理を用いて計算できる.			
		11週	インピ-	インピーダンスを用いる回路計算(3)				テブナンの定理を応用できる.			
		12週	インピ-	インピーダンスを用いる回路計算(4)				ブリッジの平行条件を用いて計算できる.			
		13週	RLC回路	RLC回路のアドミタンス				RLC回路のアドミタンスを計算できる.			
		14週	アドミ	アドミタンスの定義と回路要素				アドミタンスを説明できる.			
		15週	理解度の	理解度の確認				これまで学んできた交流回路を理解し,関係する問題 を解く事ができる.			
		16週	学年末達成度試験								
評価割合	ì										
		試験		小テスト	平常点	課題		その他	合計		
総合評価割合		60		0	0	40		0	100		
配点		60		0	0	40		0	100		